

## 78 明治15年の米価

問 明治15年に完成した仙台警察署の時計塔の大時計が、945円で出来たといわれます。当時の貨幣価値を推定する手がかりの一つとして、その年の米価を教えてください。

問 明治15年5月20日に完成した仙台警察署とは、国分町52番地に建てられ、昭和3年錦町に<sup>(1)</sup>移転するまで使用されたものであります。新式の建築様式を誇る煉瓦造2階建で、屋上には時計塔<sup>(2)</sup>を設けて、まだ時計の普及しなかった時代の市民に、時を知らせる便宜<sup>(3)</sup>を与えるものとなりました。ここに取付けた大時計は、仙台の時計師並木時徳が945円で請負い、燈台局に製造を依頼したものです。ちなみに、総工費1万2千25円（内訳、県費3千円、有志寄附9千25円）と記録されています。明治23年刊の「仙台案内」（庄子輝光）に次の記事があります。

『仙台警察署は国分町に在り。其結構造営たるや煉瓦石の五層楼〔?〕巍々として高く聳へ、其堅牢なる、能く烈風猛火に耐ゆ可く、屋上には四方面の時辰儀を安置し、直径凡そ六尺有余、夜に至り之れに点燈し、一瞥其警察署たるを知る。…』

さて、米価については、当時まだ流通範囲が狭かったし、勿論自由米価でもあり、地域的較差甚しく、また季節的その他の要因による変動も大きかったため、資料により、きわめてまちまちです。「大内家日記」（「宮城町誌」資料篇の内）には『明治十五年壬午〔みずのえうま〕年。正月下旬より米段々下直ニ相成二月中白米壺升八錢五り位也、四五月モ同断、玄米壺石六円以下之由也、中新田辺壺石ニ付四円八十錢迄之直断〔ねだん〕有之候 旧六月頃ヨリコレラ病流行、新曆十一月十日迄之内新聞上之患四千六十一人、死亡二千二百八十五人、目ノ当ラヌ有サマ也、田作ノ義ハ六月土用ニ入則冷キニ相成候得共、昨年ニハ勝レル作ニ有之ト申事ニ候間、十二月ニ相成志田郡加美郡其近傍玄米壺石ニ付極下直之節ハ三円八十錢、四円ハ上々米也、都而〔すべて〕物ハ下直ニ成候トノ噂聞得〔きこえ〕、宮城県下壺石ニ付五円極下直之節ハ四円八十錢モ有リ、白米壺升六錢五リヨリ五錢ハリ迄有之、餅白米八錢五り』。「前沢町〔旧仙台領磐井郡〕郷土史資料」（阿曾沼磨<sup>(4)</sup>）では『明治15年5月20錢』。また、「伊達家史叢談」卷之10（伊達邦宗）によれば、明治15年の米価（東京正米）8.8円となっています。

注(1) 昭和3年9月20日新築落成した鉄筋コンクリート造3階建の建築で、その後仙台北警察署、仙台中央警察署と改められ、昭和45年3月25日。東二番丁の新庁舎に移転するまで使われていた。

注(2) 使用された煉瓦は10万個で、1個8厘の割で、片平丁の県監獄署で製造された。途中で「在監人工銭規定」が実施され、1個9厘2毛に引き上げられた。

注(3) 「仙台繁昌記」第1巻（在竹小三郎、明治16年刊）に次の記事がある。『国分街 仙台区ハ戸数一万二千余、人口五万五千許、二十四街、二百五十八町アリ其内最モ殷盛ナルモ

ノヲ国分街トナス凡五坊、位置ハ旧青葉城ノ東、県治ノ西ニアリ萬商百貨、店ヲ聯ネ舗ヲ列シ一切萬物世間応有ノ品在ラザルナク備ハラザルナク……並木、治田時計師ノ豪ニシテ…蓋シ陸羽六県有名ノ都会、東北七州無比ノ繁昌ナリ〔下略〕』

注(4) 明治元年から昭和30年までの米価一覧が載せてあり、長期にわたってその変動を知ることができる。

	(円)		(円)
明治元年	4,230	明治29年	10,000
2年	7,820	30年	14,000
3年	4,670	31年	8,200
4年	2,790	32年	10,000
5年	2,000	33年	9,400
6年	3,000	34年	9,500
7年	4,680	35年	12,400
8年	5,130	36年	10,900
9年	2,940	37年	10,800
10年	3,360	38年	13,200
11年	4,800	39年	13,200
12年	6,600	40年	14,300
13年	10,200	41年	12,300
14年	8,200	42年	10,000
15年	5,200	43年	13,400
16年	3,120	44年	15,400
17年	4,600	大正 元年	20,800
18年	4,330	2年	18,200
19年	3,880	3年	10,800
20年	3,700	4年	13,800
21年	3,540	5年	15,000
22年	5,000	6年	21,200
23年	5,110	7年	36,500
24年	6,600	8年	50,000
25年	5,700	9年	25,000
26年	6,600	10年	35,000
27年	6,600	11年	25,500
28年	7,300	12年	31,000

	(円)		(円)
大正13年	3 8,5 0 0	昭和15年	4 2,3 7 0
14年	3 9,8 0 0	16年	6 5,0 5 0
昭和元年	3 4,9 3 0	17年	1 0 7,0 0 0
2年	3 3,8 5 0	18年	2 1 2,0 0 0
3年	2 7,0 0 0	19年	3 2 5,7 0 0
4年	2 5,0 0 0	20年	3,4 3 3,9 0 0
5年	2 0,0 0 0	21年	3,4 6 0,0 0 0
6年	1 6,3 0 0	22年	4,1 0 7,0 0 0
7年	2 7,1 7 0	23年	5,2 0 1,2 5 0
8年	2 0,9 0 0	24年	5,6 2 1,2 5 0
9年	2 8,6 2 0	25年	6,2 6 2,0 5 0
10年	3 1,9 5 0	26年	7,0 3 0,0 0 0
11年	2 9,2 5 0	27年	7,0 5 0,0 0 0
12年	3 1,7 5 0	28年	1 0,0 0 0,0 0 0
13年	3 3,0 8 0	29年	1 0,7 1 0,0 0 0
14年	3 9,3 2 0	30年	1 0,9 0 0,0 0 0

[以上の米価は1石当りであるので、キロに換算する時は、1石 $\div$ 143kgとする。]

資料 大内日記(宮城町誌史料篇の内)

日記附控帳( " )

曆面裡書( " )

前沢町郷土史資料(阿曾沼磨)

一迫町史[天保元~昭和48米価]

若柳町史[明治元~昭和44 " ]

町史わが鹿島台[天保元~昭和45、3等米米価]

金成町史[明治5~昭和41米価]

米価の変遷(石原保秀)[久安2[1146]~昭和11米価]

伊達家史叢談卷之10(伊達邦宗)